



可能な限り見通しをお伝える

～不安な顔が一転、明るくなる瞬間～

弁護士
たかい のぶや
高井 信也 氏
(中野支部)

高井・村山法律事務所
東京都中野区中野4-2-12 三明ビル5階
TEL：03-5318-3450
Eメール：takai@law-tm.jp
趣味：マラソン（お休み中ゆえ、お子さんと追いかっこ）

「私の仕事はある種、未来を予測する面もあると思います。依頼主に対して、可能な限り見通しを具体的にお伝えするようにしています」と高井信也氏（弁護士）。「依頼主はお金と時間をかけて、この人は自分に何をしてくれるのだろうか、と私のことを見ると思うのです。ゆえに道のりを示すことは大切だと感じています」。「初めて受け持つ事案は見通しを固くしますけどね」と微笑む。

高井・村山法律事務所は、大学時代の仲間（村山氏が後輩）と共に設立。縁は陸上部である。「私の競技種目は四百メートル走でした。才能で勝負の百メートル走よりも、努力の余地が見込める四百メートル走に魅力を感じました。世界記録は四二秒に対し、私の学生時代の記録は五二・三秒。人間は無酸素で走れる時間は四十秒と言われています。私にはいつも必死の十秒間が残っていましたね」と笑う。「どれくらい我慢が利くのか。一体どこまでふんばれるのか、心身ともに距離感がわかるようになりました」。「依頼主への見通し提示にもつながっているかもしれませんね」とさわやか。現在、事務所は陸上部時代のマネージャーであった一名を加え、弁護士は三名。「事務所内は仲が良いですよ」と明るい。「弁護士登録から十年。事務所設立、三年目。この十年は早かったですね」と高井氏。「依

頼主の事案は様々な分野にわたり、有り難く思います」。「同期同期から、依頼を受けたら断ることなくお手伝いをしてきました。おかげで外国人労働者の相談業務が一部。クチコミからの相談です」。「外国（日本）に来ている彼らを助けてくれる人はいないに等しい。弁護士が話を聞いて差し上げるだけでも感謝をされます。その時、人を助けるということの意味を都度実感します。また私自身も様々なネットワークが出来ました」。

中学高校と公民の授業で弁護士という職業を知った。「社会に携わる。人を助ける。正義を実現する、ということがちよつとカッコいいと思えました」と照れ笑い。

氏は学生時代から武蔵野から中野近辺で過ごしてきた。東京同友会は中野支部。「中野支部はまとまりがあつて心地よさを感じますね」と笑顔。「私も地域に根差した法律事務所を目指したいですね」。「この十年、走ってきて思うのは、自分自身プレイヤーでありたいと考えていること。すると事務所の規模感も、私の目が届く範囲が最適かも。でも、次の十年で私に続いてくれる人と成長していくことにも想いを馳せています」とこれからの道のりに目を向けた。

（広報部 原田健也 鈴木啓文）